

【終了報告書】

| | | | | | |
|------------------|-------------------------------------|-------------------|-------------|----|--------|
| 研修先大学/ 活動先機関名 | インディアナ大学 | 参加 プログラム名 | インディアナプログラム | 国名 | アメリカ |
| 氏名 | | 学籍番号 | | 学科 | 国際関係学科 |
| 参加時の 学年 | 2 | 参加費用 (日本円での概算) | 参加費+およそ12万 | | |
| 参加日程 | 2025年 7月 5日 ~ 2025年 7月 28日 (約3週間) | 記入年月日 | 2025年 8月 8日 | | |

① 参加前について

研修・活動に参加する目標は何でしたか。

まずは、英語力を総合的に向上させること。そして、自分とは生まれ育った環境や文化・慣習の異なる多国籍の人々と関わることで、一地域で生まれ育った自分の価値観を相対的に見つめ直すこと。

② プログラムについて

研修・活動の感想

これまで、受験勉強や大学の授業を通して、ある程度は英語を使う経験をしたが、いざアメリカでさまざまな国籍の人と交流していると、自分の得意不得意が顕著に現れたように感じた。今まででは使う機会が無く必要性にすら気が付いていなかったところにも目を向け、不得意(力が不足していること)を自覚でき、得意な点に関しては、無自覚で漠然としていた意識が、他者に褒められる経験を通して小さな自信に変わった。津田塾の生徒と共に行動することで、生徒間でも”この人はこういったことが得意なんだ”という意識が共有されたことも、刺激になった。

研修・活動以外の部分についての感想

ホームステイ先が年配の女性一人暮らしの家だったが、娘や孫たち、これまでホストしていた元留学生のような人が定期的に集まっていて、サウジアラビア人やイラン人、南アフリカ人の方々とも交流をすることが出来た。それらを通して、各のアクセントの違いを実感したり、それぞれの文化を紹介しあったりと、とても貴重な経験ができたと考える。また、英語力に関するだけでなく、ホストマザーの暮らし方から見て学ぶことがあった。特に、とても高い頻度で娘や孫と会い、彼女の友達と電話し、ホームパーティーのようなものを開催してたことが、とても素敵なものだと思った。

現地学生との交流について教えてください。※交流がなかった場合は、空欄で構いません。

③ 参加の成果について

今回の参加を経て、ご自身の中での学習面・精神面の成果があれば教えてください。

まずは、アメリカで生活をしている間に、ネイティブの方や、第二言語として英語を使用する方と会話することで、英語の中でも弱点がどこかを、実践面から認識することが出来たと考える。リスニング力が不足している事や、複雑な文を話すには時間がかかる事など、今回見つけられた課題は、日本に帰ってからも活かせるこばかりで、今後の改善にも効果的だろう。精神的にも、日本で暮らしているうちは、自分にとって快適な生活を追求することが可能であったが、それが叶わない環境だったり、そもそも文化が異なる人と関わる時間が一定約束されている環境に身を置くことで、自分から適応・調和等していく姿勢を学習出来たと考える。

④ その他

その他、気づいたことや今後参加する方へのメッセージがあれば記入してください。

このプログラムは、資格や試験の点数などで制限をかけられることが無いという点で、多くの人にとって参加しやすいものとなっているが、それでも尚、留学前になるべく勉強してくることが大切だと感じた。ある程度自分で英語の文を組み立てられたり、現地の方を会話が出来たりすると、そうでないのに比べ、より長くの時間英語に触れられ、より効果的に吸収・成長できるのではないかと考えさせられた。

国際センターのHPに掲載してもよい写真があれば添付してください。キャプションもつけてください。



これは、プログラム中盤にあったプレゼンテーションの様子です。各生徒が1人ずつ、歴史上のWoman Leader を選び、その女性の功績や私生活について発表しました。



これらはシカゴトリップ中の写真です。シカゴらしい建物・景観が見て取れるかと思います。また、シカゴ特有の気候である強風も伝わるかと思います。